家　　庭

1　研究テーマ

(1)　研究テーマ

消費生活の単元における「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実

(2)　研究のねらい

本研究では、「生活を支える経済」の単元において、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性に焦点を当て、授業展開の工夫等を行うとともに、「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた学習評価を充実させる方法を探った。

2　実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア　科目名：「家庭総合」

イ　単元名：生活を支える経済

ウ　単元の目標：

(ｱ)　家計の構造について理解しているとともに生活における経済と社会との関わり、生涯を見通して生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方、消費生活の現状と課題や消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性、消費者問題、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。

(ｲ)　生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、ライフステージごとの課題と関連付けて、問題を見出して課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

(ｳ)　様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画、消費行動と意思決定について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

エ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家計の構造について理解しているとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深めている。 ・生涯を見通して生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費生活の現状と課題や消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性、消費者問題、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、ライフステージごとの課題と関連付けて、問題を見出して課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

オ　単元の指導と評価の計画　○「記録に残す評価」　●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
【単元を貫く問い】私たちのお金と選択は、未来をどう形作るのか？						
1	1・2・3・4・5	＜支出と収入＞ ・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 ・適切な家計管理について考える。	○	○		【指導上のポイント】 ・給料の仕組みや家計の構造について理解し、予算生活の必要性について理解できるようにする。 【評価のポイント】 ・家計の収入、支出・預金など給料の仕組みや家計の構造について理解し、経済計画の必要性について理解している。(知)(ワークシート、定期試験) 【指導上のポイント】 ・適切な家計管理について生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について自分と結び付けて考察させ、課題を設定できるようにする。 【評価のポイント】 ・適切な家計管理について自分の考えをまとめ、問題を見出して課題を設定している。(思)(ワークシート)
2	6・7・8・9	＜世界とつながる家計＞ ・家庭経済と国民経済・国際経済の関係性について理解する。 ・自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について見通しを持つ。	○		○	【指導上のポイント】 ・家庭経済と国民経済・国際経済との関わりなど経済循環における家計の位置づけとその役割の重要性について理解させる。 【評価のポイント】 ・家庭経済と国民経済・国際経済の関係性について理解している。(知)(ワークシート、定期試験) 【指導上のポイント】 ・自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について理解させ、ライフプランで必要とされる出費について短期・長期の見通しを持たせる。 【評価のポイント】 ・自分の生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)(ワークシート)
3	10・11・12・13	＜生涯の生活設計とリスクマネジメント＞ ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、リスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。	○			【指導上のポイント】 ・民間保険、株式等基本的な金融資産の特徴を理解し、情報の収集・整理をさせる。 【評価のポイント】 ・生涯を見通して生活における経済のリスク管理の考え方について理解し、金融資産について情報の収集・整理が適切にできる。(知)(ワークシート、定期試験)

4	14 ・ 15 本 時	＜貯蓄と負債＞ ・シミュレーションを通してライフステージに応じた生活を営むためにどのような経済の管理や計画が必要かについて考える。		○	●	【指導上のポイント】 ・住宅購入(ローン)シミュレーションを通して経済の管理や計画の重要性について気付かせ、ライフステージに応じた生活を営むための経済の管理や計画について考えることができるようにする。 【評価のポイント】 ライフステージに応じた生活を営むための経済の管理や計画の重要性に気付き、経済の管理や計画を考え、論理的に表現している。(思)(Google フォーム)
5	16 ・ 17 ・ 18	＜消費者の権利と責任＞ ・様々な契約の事例から消費者には権利と責任があることを理解する。 ・高校生にとって身近な消費者被害を取り上げ、消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・グループで消費者問題を防止するポイントについて考える。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるかについて見通しをもつ。	○	●	○	【指導上のポイント】 ・契約における未成年者と成年の法律上の責任について及び、消費者が有する権利と責任について理解し、消費者保護制度に関する知識を身に付けることができるようにする。 【評価のポイント】 ・消費者の権利と責任について理解することができている。(知)(定期試験) ・消費者保護制度について理解することができている。(知)(定期試験) 【指導上のポイント】 ・自立した消費者として適切な消費行動ができるように身近な消費生活について考えさせる。 【指導上のポイント】 ・消費者の権利と責任の変遷について理解を深め、消費者市民社会の実現について見通しをもたせる。 【評価のポイント】 ・消費者市民社会の実現に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。(態)(ワークシート)
6	19 ・ 20	＜自立した消費者となるために＞ ・生涯を見通して自立した消費者になるためにどのようなお金の管理と、消費の選択が必要かについて考える。 ・生涯を見通して自立した消費者となるため行動目標を考える。		○	○	【指導上のポイント】 ・自立した消費生活を営むために、家計の管理と適切な意思決定に基づいた消費の選択についてライフステージと関連付けて課題の解決に向けて考えさせる。 【評価のポイント】 ・自立した消費生活を営むために、家計の管理や計画、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。(思)(ワークシート) 【評価のポイント】 ・生活における経済の計画の重要性、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしている。(態)(ワークシート)

カ　授業実践例　(14、15時間目／20時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1．本時の学習内容の説明と目標の確認 ・本時の学習目標を確認する。 **【本時の目標】お金を借りることを通して、将来の資産形成について考える** 2．住宅ローンの基礎知識について、講義を理解する。  **図１　教師から講義を受ける様子** 3．住宅ローンについてグループごとに調べる。 ・Google Geminiを使用して、シミュレーションを行う。住宅ローンに関する対となる意見がある３つのテーマのうち１つをグループで調べ、①おすすめの理由②どのようなリスクがあるか③リスクの防ぎ方④まとめを発表できるようにまとめる。   **図２グループごとに調べ学習を行う様子** 4．グループごとに発表、投票 ・テーマごとに発表を行い、どちらが自分の考えとあっているかGoogleフォームを使用して投票をする。   **図３　グループごとに発表を行う様子** 5．振り返り ・将来ライフステージに応じた生活を営むためのどのような経済の管理や計画が必要か考える。	(Google フォーム) 【思考・判断・表現】 ○記録に残す評価

研究実施校：神奈川県立藤沢清流高等学校(全日制)
実　施　日：令和７年10月16日(木)
授業担当者：伊藤　智子　教諭

キ　本時の評価規準Ａ・Ｂと判断される具体的な例とＣと評価する生徒への手立ての例

【思考・判断・表現】

「概ね満足できる（Ｂ）と判断できる状況（評価規準）	ライフステージに応じた生活を営むための経済の管理や計画の重要性に気付き、経済の管理や計画を考え、論理的に表現している。
「十分満足できる（Ａ）」と判断される姿	ライフステージに応じた生活を営むための経済の管理や計画の重要性に気付き、経済の管理や計画について既習事項と結び付けて具体的に自分の考えをまとめ、論理的に表現している。
「努力を要する（Ｃ）」と評価した生徒への手立て	住宅購入（ローン）シミュレーションを通して、経済の管理や計画の重要性に気付き、経済の管理や計画を考えるヒントを与える。

(2)　「指導と評価の一体化」の実現に向けたポイント

ア　授業展開の工夫

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説家庭編』（以下、『解説』）には「Ｃ　持続可能な消費生活・環境」について、「ここでは，持続可能な社会を見通して，自立した生活を営むために必要な生活における経済の計画や消費生活及び環境との関わり等に関する理解を深めるために，家族・家庭や福祉，衣食住等の内容と相互に関連付けながら，環境に配慮して持続可能な社会を目指したライフスタイルと生涯を見通した生活設計について考察するなどの指導を工夫する。その際，外部講師や関連施設と連携を図ったり，ロールプレイングやケーススタディなどの演習を工夫したりして，実際的な体験活動を積極的に取り入れることによって理解を深めることができるよう努めることが望ましい。」（『解説』p.74）と示されている。また、生涯を見通しての生活における経済の管理や計画においては、「世の中に大量にあふれる生活情報の中から，短期的・長期的な経済の管理や計画に関連した適切な情報を収集し，ＩＣＴや統計資料等を活用して整理できるようにする。」（『解説』ｐ.75）とある。

そこで、本研究では経済の計画や消費生活と住生活の内容を関連付け、ライフスタイルと生涯を見通した経済の管理や計画を具体的に考えさせる授業を単元の中に設定し、題材として住宅ローンに関する費用について取り上げた。高校生にとって将来の経済管理を考えることはまだ経験していないことであり、課題を発見し、その解決を目指すことは容易ではない。そこで、住宅ローンに関する費用について情報を短時間で収集することができる生成ＡＩを活用してシミュレーションを行った。

授業を計画する前に生徒の住宅ローンについての認識と生成ＡＩの活用状況を確認するために、単元の導入としてGoogle　フォームによる事前アンケート調査を実施した。「住宅ローンにおける『金利』、『頭金』、『諸費用』といった内容についてあなたの理解度は？」の問いには、「まったくわからない」と回答した生徒が17%、「言葉は聞いたことがあるが、よくわかっていない」と回答した生徒が67%であり、全体の８割以上という結果であった（図４）。次に、「将来を見通したお金の管理について考えたことがありますか？」の問いには、「よく考える」「たまに考える」と回答した生徒と、「あまり考えたことがない」「まったく考えたことがない」と回答した生徒は、ほぼ半分ずつであった（図５）。最後の「生成ＡＩをよく使いますか？」の問いには、「よく使う」、「まあ使う」、「ときどき使う」と回答した生徒の合計は約６割であり、活用したことがある生徒の方が少し多く、現代の生成ＡＩの普及がうかがえた。「あまり使わない」「使わない」と回答した生徒も４割程度いることがわかった（図６）

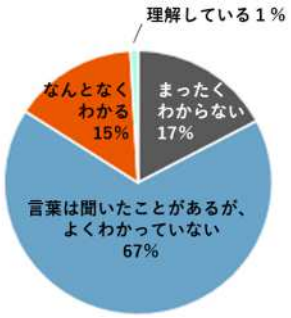


図４　事前アンケート「住宅ローンにおける『金利』、『頭金』、『諸費用』といった内容についてあなたの理解度は？」の結果（n=220）

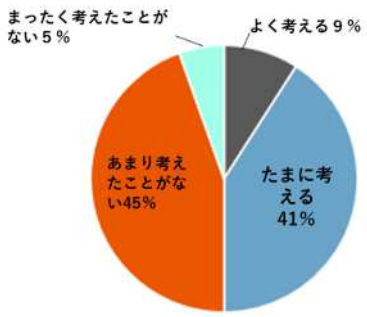


図５　事前アンケート「将来を見通したお金の管理について考えたことがありますか？」の結果（n=220）



図６　事前アンケート「生成ＡＩをよく使いますか？」の結果（n=220）

そこで、本時の授業展開はまず住宅ローンについて基礎的な語句や知識を説明した後に理解を深めるために生成ＡＩを活用した住宅ローンシミュレーションを実施した。生成ＡＩをあまり使わない生徒もいたためグループでシミュレーションに取り組ませた。また、プロンプトの例文として「住宅ローンの返済額を出して。〇〇〇万円中古マンション。フラット35で35年ローン。固定金利〇〇%の場合の月々の返済額、返済総額。」と具体例を示し、生徒がスムーズにシミュレーションできるように工夫した。シミュレーションで購入する物件は、あらかじめ設定された物件や地域、金利のタイプなどから選択させた。月々の返済金額や返済総額をGoogle スプレッドシートに入力し、比較できるようにした(図７)。借入金額や金利の条件を変えるなど複雑な計算を瞬時に行うことができる生成ＡＩを活用したことで、短時間で多くの情報を収集し、生徒の思考を深めさせる取り組みが可能となった。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	家族構成	住まいのタイプ	場所	金利タイプ（現在の金利%）	融資元	返済期間	①購入金額（例：4,000万円）	②月々の返済額（例：80,000円）	③返済総額（例：48,000,000円）
1班	独身	マンション（中古）	東京２３区	固定1.8%	フラット３５	35年	3,980万円	126,878円	53,288,760円
2班	独身	マンション（中古）	東京２３区	変動0.6%	民間銀行ローン	35年	3,980万円	101,988円	42,834,960円
3班	夫婦２人（共働き）	一戸建て（新築）	相模原市	固定1.8%	フラット３５	35年	2,780万円	88,443円	37,146,060円
4班	夫婦２人（共働き）	一戸建て（新築）	相模原市	変動0.6%	民間銀行ローン	35年	2,780万円	72,393円	30,405,060円
5班	夫婦＋子ども1人（共働き）	マンション（新築）	藤沢市	固定1.8%	フラット３５	35年	5,000万円	162,100円	68,082,000円
6班	夫婦＋子ども1人（共働き）	マンション（新築）	藤沢市	変動0.6%	民間銀行ローン	35年	5,000万円	127,106円	53,384,525円
7班	夫婦＋子ども２人（共働き）	一戸建て（中古）	横浜市	固定1.8%	フラット３５	35年	4,499万円	143,248円	60,154,160円
8班	夫婦＋子ども２人（共働き）	一戸建て（中古）	横浜市	変動0.6%	民間銀行ローン	35年	4,499万円	116,000円	49,780,080円

図７　住宅ローンシミュレーションにより生徒が調べた住宅情報の一部（Googleスプレッドシート）

住宅ローンシミュレーションを行った後、グループごとに「ファイナンシャルプランナー」または「銀行の融資担当」として顧客への提案を作成する活動を行わせ、その結果を発表させた。また、金利や返済期間による金額の違いなどを調べる際には生成ＡＩを活用させた。

テーマは、「①変動金利か固定金利」、「②短期ローンか長期ローン」、「③頭金を準備しないうちに購入するか頭金を準備してから購入するか」に絞り、その担当は班ごとで違うものを割り当てた。自分の考え方にあったテーマの生徒もいれば、自分の考えと反対のテーマになり困惑する生徒もいたが、多角的な視点でテーマについて調べることで、そのメリットやリスクが見えてきたようであった。なかなか住宅ローンに対して具体的に考えることができない班には生成ＡＩを活用して調べることを促すなどの声掛けをして、漠然とした情報の中で考えるのではなく、具体的な根拠を基に考えていくよう指示するなどの工夫を行った。

その結果、自分だったらどのような判断をするか、またライフステージによってその考え方が変化する可能性についてグループで話し合っており(図８、９)、主体的に将来に対して考える姿が見られた。



図８　調べ学習の様子

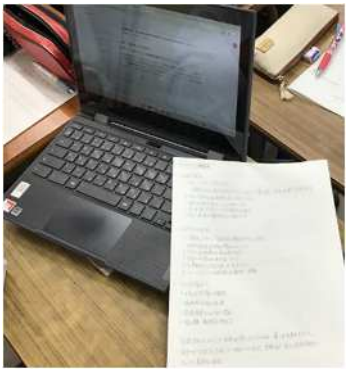


図９　発表に向けた意見をまとめたシート

発表では、他のグループの発表を聞き、①～③について自分だったらどちらが良いかを、自分の課題として考えて投票させることで、生徒は実践的・体験的に自らのライフプランニングに生かせる選択を検討することができた。また、授業の最後に投票結果をグラフ(図10～12)で共有することで、他者の考えを知り、自らの考えをさらに深めさせる授業展開が実践できたと考えられる。

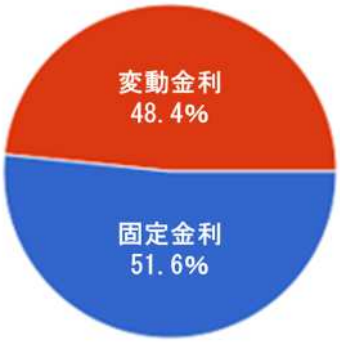


図10　発表後の投票「ローンを組む場合、変動or固定　どちらを選ぶ？」の結果(n=62)

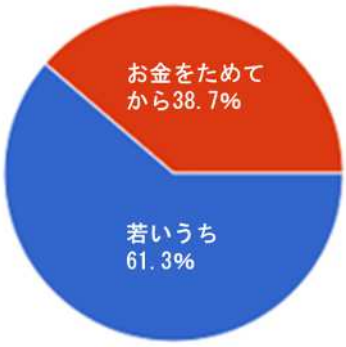


図11　発表後の投票「住宅ローンは若いうちに組んだ方が良い？or歳をとってもお金がたまってからが良い？」の結果(n=62)

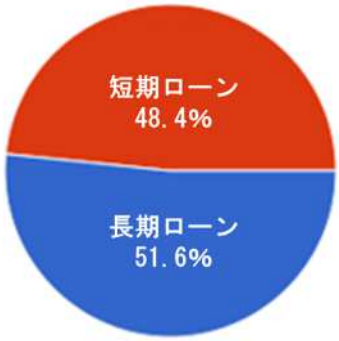


図12　発表後の投票「住宅ローンは長期ローンor短期ローンどちらを選ぶ？」の結果(n=62)

授業後に事後アンケートを実施した。事前アンケートと同じ内容の「住宅ローンにおける『金利』、『頭金』、『諸費用』といった内容についてあなたの理解度は？」の問いでは、「なんとなくわかる」「理解している」が約７割に増加した(図13)。また、事前アンケートでは「将来を見通したお金の管理について考えたことがありますか？」の問いに、「よく考える」「たまに考える」と回答した生徒は約５割であったが、事後アンケートでは「将来を見通したお金の管理について、今後はどのように考えていきたいですか？」の問いに、「よく考えていきたいと思う」「たまには考えたいと思う」と回答した生徒が９割以上に達した(図14)。事前・事後のアンケート結果から、住宅ローンについての理解度が向上した生徒が大幅に増加したことが確認された。また、今後のお金の管理に対し意識していこうと考える生徒の割合も増加し、将来のライフプランニングに対する主体的な意欲が高まったことが明らかとなった。体験的な学習と対話的な学びを通して、お金の管理を自分事として捉え、ライフスタイルと生涯を見通して考えることができた結果であると推測される。

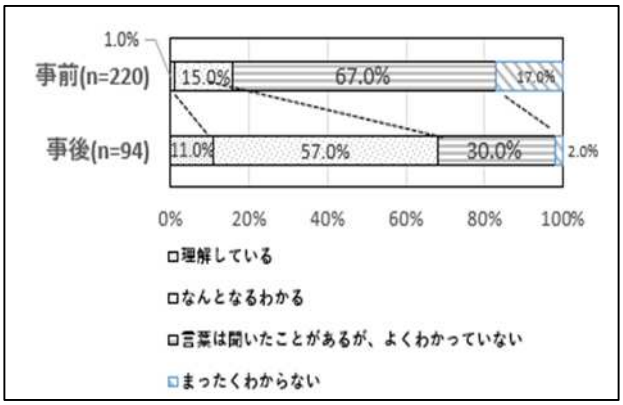


図13　「住宅ローンにおける『金利』、『頭金』、『諸費用』といった内容についてあなたの理解度は？」の結果

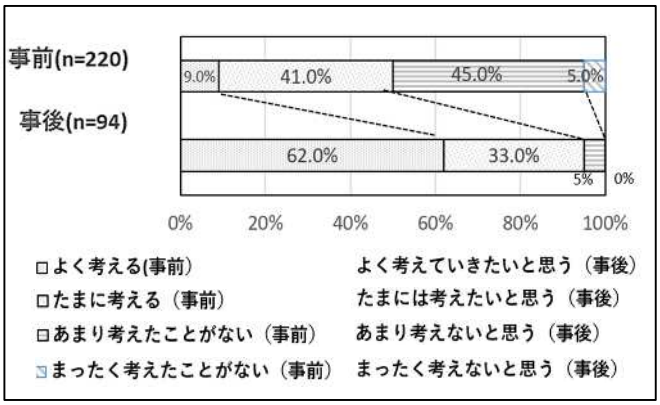


図14　「将来を見通したお金の管理について考えたことがありますか？（事前）」及び「将来を見通したお金の管理について、今後はどのように考えていきたいですか？（事後）」の結果

事後アンケート「住宅シミュレーションで生成ＡＩを使用したが、生成ＡＩを使用することでどのようなメリットがありましたか？」の問いに対しては、短時間で情報を収集できたという回答が見られた。一方で、求める答えを導くためのプロンプトの重要性や情報の正確性を判断する必要性に言及した記述も見られた(図15)。

Q.住宅ローンシミュレーションで生成ＡＩを使用しましたが、生成ＡＩを使用することでどのようなメリットがありましたか？
生徒Ａ：指示する言葉が不完全だと伝えたいことがしっかり伝わらず誤った回答が返ってくる可能性がある。
生徒Ｂ：調べてほしいことを書くだけで答えが知れるのでとても便利だなと思ったし、時間を大幅にカットできたり話し言葉でも答えが知れるなどのメリットがあるが同時に危険性も実感した。
生徒Ｃ：今回、住宅ローンのシミュレーションにＡＩ(Google Gemini)を使うことで、複雑な計算を正確に行い、条件を変えて比較することができました。また、専門用語をわかりやすく説明してくれた為、自分でも住宅ローンの仕組みを理解しやすくなりました。ＡＩを使うことで、効率的に学び、考察を深めることができた点がメリットだと感じました。

図15　アンケートの結果(一部抜粋)

イ　「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価を充実させる工夫

本時の目標は「お金を借りることを通して、将来の資産形成について考える」とし、「思考・判断・表現」について評価を行った。「思考・判断・表現」の観点では、単に知識を使って考え、表現しているかを問うのではなく、生徒が経済的課題に対して主体的に考察し、論理的に考えをまとめるプロセス全体を評価し、指導にも活用していくという点を重視している。本時では、「思考・判断・表現」の評価として、「ライフステージに応じた生活を営むための経済の管理や計画の重要性に気付き、経済の管理や計画を考え、論理的に表現しているか」を見取るために、「住宅ローンを組むという決断は、あなたの将来のライフプランにどのような影響を与えると思いますか？」という質問にて振り返りを実施した。

回答から、住宅ローンについて「将来に大きな影響を与えるもの」「生き方や人生設計に深く関わる重要な選択」といったその重要性に関する記述や、「家計管理や貯金計画を立てる」「事前によく考え、勉強する」といった計画性に関する記述が見られ、また、既習事項と結び付けて具体的に表現されており、評価基準において十分満足できる(Ａ)と判断できる記述も確認できた(図16)。このように、生徒は本時の授業を通してライフステージを見通し、具体的に将来の資産形成について考えた内容を論理的に表現していた。

Ｑ　住宅ローンを組むという決断は、あなたの将来のライフプランにどのような影響を与えると思いますか？
生徒Ｄ：住宅ローンを組むという決断は、将来のライフプランに大きな影響を与えると思います。長期間にわたって返済を続けるため、毎月の家計管理や貯金計画をしっかり立てる必要があり、家を持つことで安定した生活基盤を得られる一方、転職や転勤などライフスタイルの変化に対応しにくくなる可能性もあります。そのため、将来の収入や家族構成の変化を考えながら、無理のない返済計画を立てることが大切だと感じました。住宅ローンは単にお金を借りることではなく、自分の生き方や人生設計にも深く関わる重要な選択だと思います。
生徒Ｅ：住宅ローンを組むという決断はお金を借りるという不安感やリスクはあるが、将来を見据えて、よく返せる金額、返せる期間かをよく考えて借りれば将来にとても役立つものだと考えた。またそのシステムについてもよく理解する必要もあるので、借りる前(若いうち)に将来についてよく考え、勉強し将来、住宅ローンを完全に返せるような計画を立てることが重要だと考えた。

図16　振り返りの記述(一部抜粋。原文の意味を変えない範囲で改編、下線は筆者)

また、グループ活動では住宅ローンシミュレーションや「ファイナンシャルプランナー」または「銀行の融資担当」という役割設定のもと、生徒が具体的な根拠に基づいて考えることにより、「自分だったらどのような判断をするか、またライフステージによってその考え方が変わるのではないか」といった、将来に対して主体的に考える発言があった。

本研究においては、生徒が受け身で知識を蓄積するのではなく、複雑な金融テーマをシミュレーションで分析し自分事として認識させた。そして、仲間たちと対話を重ねながら何が最適であるか意思決定をすることで、知識だけでなく、判断力を身に付け、将来の生活に活用しようとする主体的に学ぶ態度の育成にもつながったと考えられる。

ウ　成果

本研究では、本時の目標を「お金を借りることを通して、将来の資産形成について考える」とし、経済の計画や消費生活と住生活の内容を関連付け、ライフスタイルと生涯を見通した経済管理や計画を具

体的に考えさせるために住宅ローンシミュレーションを授業に取り入れた。高校生にとって住宅ローンを借りることはまだ先の未来であり理解することが難しい。生成ＡＩを活用することで、整理された情報を短時間で効率的に収集して住宅ローンシミュレーションを体験し、理解度を向上させることができた。また、授業をスムーズに進行させるためには、事前に生徒の知識理解度や生成ＡＩの活用状況を把握し、指導内容の検討やプロンプト例を提示することが重要であることがわかった。

生成ＡＩを活用した住宅ローンシミュレーションでの体験的な学習を踏まえて、住宅ローンをどのように借りたらよいかグループで調べたことの発表を聞き、自分の課題として考えて投票する活動を行った。授業後の振り返りでは、ライフステージを見通して具体的に将来の資産形成について考えたことを論理的に表現している記述が見られ、本時の「思考・判断・表現」の評価基準を達成していることを見取ることができた。グループでの対話や発表を通して自分とは異なる考えから視点を広げ、自分事の課題として考察することができたためであると考える。

また、本時の学習を通して、生徒は知識だけでなく判断力を身に付けることができ、将来の生活に学びを活用しようとする主体的に学ぶ態度の育成にもつながったと考えられる。

また、生徒のアンケートの記述からは生成ＡＩを活用するメリットとして短時間での情報収集が可能であったことを挙げた一方で、プロンプトが不完全だと伝えたいことがしっかり伝わらず誤った回答が返ってくる可能性があることや、情報の正確性を判断する必要性があるといった危険性を実感したなど、情報活用能力に関する振り返りが見られた。授業で生成ＡＩを活用することで生活情報を適切に収集し、整理する際の注意点を生徒に学ばせることができることがわかった。

エ　課題・今後に向けて

本研究では、生成ＡＩを「あまり使わない」「使わない」と回答した生徒の割合が４割程度であった。生成ＡＩを授業で活用する際の日常的に使用していない生徒への指導方法や利用におけるＡＩリテラシーの育成が重要な課題であると考える。

グループ学習では、生徒は対となる意見があるテーマについて調査したが、自分の考えに合ったテーマの生徒がいる一方で反対のテーマになり困惑するという生徒もみられた。すべての生徒に多角的な視点からメリットやリスクを深く考察させるために、さらなる指導方法の工夫が必要である。

また、経済の計画や消費生活についてと住生活の内容とを関連付けた今回の授業内容の他にも単元計画を横断的に見直し、各ライフステージでの特徴や課題を多角的に考えさせる工夫を行うことで、生涯を見通したライフプランの具体化を促し続けたい。生徒が現実の生活で直面する複雑な課題を、多角的な視点から解決する能力を育み、生徒が自立した生活者として、よりよい社会の構築に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指したい。

引用・参考文献

文部科学省　2018　『高等学校学習指導要領(平成30年公示)解説家庭編』p. 74-75